

令和2年度 学校評価総括表 伊丹市立伊丹小学校							
教育目標		徳・知・体の調和のとれた心豊かなたくましい子の育成					
重点項目		1、人間尊重の精神を培い、心豊かな生活実践に努める態度を養う。					
		2、基礎的・基本的な知識技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決する能力を育む。					
		3、命を尊び、心や体を鍛え、たくましく生き抜く力を培う。					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校運営協議会委員評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的、基本的な知識技能を習得する 朝学習を「とりもどす学習」と捉え、反復練習により既習内容の定着を図る。また、週に三回程度伊小タイムを設け、休校期間で実施出来なかった学習を行う。 3学期末の各学年計算チェックテストを継続し、課題を明確にし、素早く対応する。 3学期末の各学年重点項目を設定し、国語(ことばに関する)チェックテストを実施し、課題を明確にする。 家庭学習での漢字や計算の練習量を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 3学期末に実施し、傾向を図るとともに、課題を明確にする。 国語のチェックテストを学期末に実施し、傾向を図るとともに、課題を明確にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後は、チェックテストの分析とも関連させて、より効果的な内容にしていく必要がある。 各学年ともに、1～3学期の学習の様子から感じられた課題となる問題をチェックテストに取り入れることができた。分析することで1～6年生の系統的な課題が見えてきた。しかし、例年同じ課題が挙がってきているため、改善策を再度考えていく必要がある。 1～3学期の内容の国語のチェックテストを実施できた。系統的な課題が見えてきたため、来年度の学習に生かす。しかし、テストでの設問の仕方に教師側の課題も出てきたため、改善が必要である。 学年に応じた練習量を家庭学習として出すことができた。のびのびプリント棚を職員室前に設置したことで、復習をするためにプリントを自主的に取る児童の姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の定着を図るため、各学年で計画的かつ段階的に取り組む。 チェックテストの結果分析により明確になった課題に対して、「課題と対応策」を各学年ごとに文書にまとめる。どの教師も全学年分の「課題と対応策」を共通理解し、来年度の児童へ生かしていく。 今年度の課題をふまえて、伊小タイムの取り組みを継続するとともに、チェックテストの内容、仕方についても検討していく。 「量」と「継続」を意識し、家庭への啓発を図る。 自主学習の仕方を学校で検討していき、学習に向かう意欲を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> チェックテストは、今後も継続して実施して欲しいが、全国学力学習状況調査も十分に活用して欲しい。 家庭学習において宿題の量や時間だけでなく、自学ノートなどのやり方など学年にあった方法を教えていく必要がある。
	思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの実現に向けた授業づくりを進め、その成果を発信する。 読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度までの研究を通して確立した授業スタイルを基礎として、子どもが主体性を発揮・伸長する「めあて」と「ふりかえりの場」を取り入れ、日常の授業での実践を図る。 一人一実践を通して、子どもの主体性を高める手立てについて見識を深める。 児童自身が目標を立て、1か月の読書冊数が15冊以上になる。 5、6年生の児童へのアンケートで、「読書をするのが楽しい」という項目の肯定的回答が85%になる。 校内の感染予防ガイドラインを遵守する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業等の実践を通して、子どもの課題意識に基づく1時間の授業の「めあて」や「到達点」を子どもたちと共有する場を開発し、日々の実践に活かすことができた。 ICT機器の効果的な活用について検討し、有効な手立てを講じることができた。 単元や1時間のめあてを確実に共有することができる明確なめあてについて、検討を重ねる必要がある。 貸出冊数を制限したり、教室内の人の出入りを制限したりするなど、感染予防については徹底できたと感じる。一方で、図書への貸出冊数などは例年と比べて大きく落ち込んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の段階で、具体的に明確な「めあて」と「めあての提示」の仕方について検討し、共有する。 研修会等を通して、「めあて」設定の仕方や「ふりかえり」の方法についての見識を深める場をもつ。 コロナによる状況はこの1年の中でも大きく変化した。新しい生活様式の中でリスクと読書の推進を両立して進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭でも〇曜日の何時から読書タイムを行うなど読書週間を広げるなどの対策を行う。また、学級文庫の充実も図る。
	読書の習慣をつける。 「図書だより」や掲示物でおすめの本を知らせる。 やるソウカードの取り組みを通して家庭の読書への関心を高める。(今年度PTAの「やるソウカード」実施せず) 感染対策を踏まえた上で、図書館を運営する。 手洗いを徹底させる。	<ul style="list-style-type: none"> 児童自身が目標を立て、1か月の読書冊数が15冊以上になる。 5、6年生の児童へのアンケートで、「読書をするのが楽しい」という項目の肯定的回答が85%になる。 校内の感染予防ガイドラインを遵守する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 貸出冊数を制限したり、教室内の人の出入りを制限したりするなど、感染予防については徹底できたと感じる。一方で、図書への貸出冊数などは例年と比べて大きく落ち込んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナによる状況はこの1年の中でも大きく変化した。新しい生活様式の中でリスクと読書の推進を両立して進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭でも〇曜日の何時から読書タイムを行うなど読書週間を広げるなどの対策を行う。また、学級文庫の充実も図る。 	
授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> iPadなどのICT機器の導入を行う。各教科にてICT機器を有効に使用し、学習意欲の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> iPad等の情報機器の導入。 ICT機器の活用方法の研究を進め、実践交流を行う。 新指導要領におけるプログラミング教育に関して、研修等を行い、職員の理解向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学年にて大型ディスプレイを使用した授業や、インターネットを活用した授業は増えてきた。 プログラミング教育についての研修や、iPadについての研修など、プログラミング教育やICT機器に関する基礎的な研修を進めることができた。 プログラミング教育に関しては、基礎的な研修を行うことができたが、積極的に普段の授業に取り入れるには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、教科におけるプログラミング教育の実践例を紹介するなど、プログラミング教育を周知させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ipad等ICT機器の関する研修の充実が必要である。 	
学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活規範を確立する。 放課後の子どもの過ごし方は、学校と家庭との共通した取り組みとして考えるようにする。また、それぞれの様子を各通信や懇談会で共有していく。 登校後すぐに名札をつける習慣をつけさせる。 上靴のかかとを踏んで過ごす子どもがいるので、安全を考え指導を呼びかける。 自分の持ち物への意識を高めていくために、持ち物への記名を徹底させていく。 開始時間を守り、隅々に渡って掃除をすることを意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校での取り組みを通信などでお知らせすることで、「学習時間」「読書時間」「テレビ・パソコン・ゲームする時間」などを重点的に指導していくことができる。 学校内では全員が名札をつける理由を理解して、学校生活を送るようになる。 安全と自分自身の健康に気を配りながら学校生活を送るようになる。 自分の持ち物を大切に、落とし物の数を減らそうと意識するようになる。 時計を見て、掃除場所へ移動し、開始時間を守って掃除を行う。また、安全衛生上きれいな教室や廊下で生活を送ることを意識して掃除を行うようになる。学期末の大掃除では、学期の区切りを意識して、日頃の感謝の気持ちを込めて取り組む姿が見られるようになる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校と家庭の共通した課題として考えることができた。家庭での読書量の少なさが課題としてある。また、スマホやゲームの時間・きまりが守られていないという保護者の悩みも聞かれた。 互いに声をかけ合い、登校後名札をつける姿が見られたが、学年・学級によってばらつきが見られる。 週末に上靴を家に持ち帰る習慣をつけることで、買い替えがスムーズに行われていた。しかし、まだまだかかとを踏んでいる児童が見られる。 児童に呼びかけ、クラスごとに確認を行わせたことで、昨年度と比較して若干落とし物が減った。落とし物を見ると、名前の書かれていない物がほとんどだった。 時計を見て、移動できる児童が出てきた。掃除マニュアルなどを目につくところに貼ることで、丁寧に掃除をする児童が見られた。 掃除時間中に話を止めて手の止まっている姿が見られた。学期末掃除については、意識して丁寧に掃除をする姿が見られた。また、放送委員と協力して放送や音楽をかけてもらい、時間を意識する児童が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 高学年においては子ども自ら計画的に放課後の時間の使い方について考えさせるように、学校も家庭も指導を徹底していく。低・中学年においては、基本的な習慣を身に付けさせた上で、計画的に過ごせるように指導していく。 教室での名札の置き場所、配布・回収する時間など工夫する。名札を付ける理由を明確にして、学級指導を行い、自ら付けようとする意識を指導していく。 職員間で共通理解を深め、週末の上靴の持ち帰りを徹底して学級指導していく。 学級指導だけでなく、通信などで家庭への呼びかけも行い、持ち物の記名についても徹底できるようにしていく。 掃除開始時刻が掃除場所への移動時刻ではないことを指導していく。自ら進んで働くことの大切さを指導していく。また、掃除道具の使い方についても清掃部と連携して指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 努力したこと、できたことをどんどん誉めてあげて欲しい。そのことによって、自己肯定感、自己有用感が育つ。 	

豊かな心・健やかな体	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のはじめに、基礎体力を高めるための運動を取り入れる。低学年のうちから、多様な運動を段階的に経験できるように、年間カリキュラムを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元に合った力を身につけていくことで、結果としてスポーツテストの指標が1ポイント向上する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一昨年度の5年生男子が54.03点で、今年度が50.88点と、大きく下回った。他の8種目は全てで全国平均を下回っている。また一昨年度の5年生女子が54.68点で、今年度が53.53点と同程度で推移している。全国平均を上回ったものは・50m走のみで、他7種目握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、シャトルラン、ソフトボール投げ、立ち幅跳びは下回った。 ・男女ともに、特に下位にあるのが、反復横跳び・上体起こし・シャトルランの3種目であった。(今年度はコロナ禍により、スポーツテストは実施できていない。) ・一昨年度の反省より、ソフトボール投げを強化するカリキュラムを組んだ結果少し改善され、休み時間に遊ぶ児童が増えつつある。やはり、遊びの日常化が関係しているようである。また、今年度の3学期には手首を使って遊べるドッジビーの導入も試み、それを使って遊ぶ児童が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一昨年度から継続して、低学年のうち多様な運動を、段階的に経験させていくことで、技能的に向上させるとともに、運動嫌いを増やさないようにする。そうすることで、遊びの日常化につながられるようにしていく。 ・ボール投げについても一昨年度から継続して、低学年から段階的に身につけさせたい技能を明確にし、指導にあたるように年間カリキュラムに示す。 ・授業開始時の5分程度の時間を使って、単元に合わせて体力を高められるような運動を取り入れていく。 ・今後もドッジビーのクラス配布は続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であっても、子どもたちに何らの形で体を動かす機会を積極的に作って欲しい。また、室内でもできる運動なども発信して欲しい。 ・体力の維持をしていくためにも食育も大切である。体の土台作りには、食事の室について、分かりやすく子どもに伝えることが必要である。
	豊かな心を育む 道徳教育・情操教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値について学び、道徳的実践力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に加え、副読本「心シリーズ」も積極的に活用しながら、内容項目のバランスが取れたカリキュラムを編成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や他教科との関連付け、副読本の活用状況に応じたカリキュラムを作成し、その内容や時間配当等の妥当性を検討する。 		B	<ul style="list-style-type: none"> ・実践状況と子どもの実情をもとに題材の一部を見直し、カリキュラムを完成させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年等のフィードバックをもとに、新たな題材を取り入れたり、入れ替えたりするなど、子どもの実情に応じたカリキュラムの更新を行う。
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な情報収集と情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校HP、学校通信「いたみっ子」や掲示板等を活用して児童や教育活動の様子を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月10回の更新 ・学校通信を年間20号以上発行 ・季節に応じた動きのある掲示板の作成 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・更新回数が増えたことで、リアルタイムで子どもたちの活動の様子がHPにアップすることができた。また、色々な連絡をすることができた。 ・学校通信「いたみっ子」を20号発行することが出来たが、行事が無くなり発行数が昨年度より減った。 ・掲示委員会を活用して、動きのある掲示ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リニューアルされるHPを充実させ、アップ回数を上げることで、保護者や地域に伊丹小の魅力を発信していく。 ・ミマモル等を活用して、紙ベースでの発行だけでなく、HPへのアップ、添付メールでの配信なども考えていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の年5回開催及び教職員との懇談会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会で、学校における課題について提言をいただくことができた。しかしながら、その提言を教職員、保護者が共有することが十分にできなかった。また、予定していた学校運営協議会委員との懇談ができなかった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会委員との懇談会を開催し、意見交換することで教職員と課題を共有する。また、PTA、自治協議会、その他ボランティア組織との連携のあり方を検討する。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・サタデースクールやスポーツ21、自治協子ども部など家庭、地域と連携した行事へ参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人1回以上の参加 		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で行事が減り、参加者が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善を考えながら、積極的な参加を呼びかける。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・災害による休校等の情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休校や学級閉鎖等の学校情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休校や学級閉鎖等の学校情報を発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員に写真の提供を呼び掛けるなど、担当の負担を減らすことで更新頻度を維持できるようにする。 			
		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新頻度を各学年月2回を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、月2回の更新(年間114回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・月2回の更新ができない学年もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年行事については、学年の情報担当がHPを更新する。 			

学校運営協議会委員評価

- 1 GIGAスクール構想に沿って、ipad等ICT機器の積極的な活用を進めると共に、研修を充実させ、教師の活用能力を高めるとともに、授業のユニバーサルデザイン化をさらに進め、誰もが分かる楽しい授業作りに努めて欲しい。
- 2 高学年において教科担任制や能力別少人数授業を導入するなど全体の学力の底上げに尽力して欲しい。
- 3 学校生活だけでなく、家庭においても、子どもたちを褒める機会を増やし、自尊感情の醸成に努めて欲しい。
- 4 学校便りやホームページ等で学校の様子が発信され学校の取り組みがよくわかる。今後は、学年で役割分担を進め、学年行事等の様子もリアルタイムで情報発信に努めて欲しい。
- 5 コロナ対策を始め、未知の災害等を含め、危機管理意識をしっかりと持ち、学習環境を整備し安全安心な学校づくりを推進して欲しい。

次年度にむけた重点的な改善点

- 1 導入されたタブレット等を活用するために、ICT機器の研修を充実させ「わかる楽しい授業」の創造と主体的で深い学びを充実させる。
- 2 不登校傾向の児童に対して、児童に寄り添った共感的理解に基づく生徒指導を行うとともに、組織的な協力体制及び関係機関との連携を進め不登校児童を減らす。
- 3 ホームページ、学校便りを充実させることで、学校の様子を積極的に発信する。
- 4 学校、家庭、地域の連携をさらに深めることができるように、学校運営協議会の組織の改編を進めるなど内容を充実させ、地域とともにある学校づくりを推進する。
- 5 危機管理意識に関する研修を充実させると共に、コロナウィルス感染症に対し、きめ細やかな対応を進める。